

自 令和 6 年 4 月 1 日
令和 6 年度 () 会務報告書
至 令和 7 年 3 月 3 1 日

一般社団法人日本絹人織織物工業会

1. 会員異動

	本年度初	増 加	減 少	本年度末
会 員 数	3 0	—	1	2 9

2. 業務報告

(1) 一般概況

繊維産業として人材の確保については、懸案であった特定技能制度における繊維業の業種追加、技能実習制度に変わる育成就労制度の創設に向けた法改正等が行われた。取引適正化については、中小企業振興基準の改定、手形等のサイトの短縮への対応等を踏まえ ①労務費の適切な転嫁に向けた交渉のあり方 ②原材料費やエネルギーコストの適切なコスト増加分の全額転嫁を目指す取り組み ③支払いサイトの短縮に取り組むべき対応について、実情に即した形で追記をした「繊維産業における自主行動計画」(第7版)が発行された。

また、「環境配慮設計ガイドライン」が公表され、環境に配慮した製品設計の取組の方向性が示された。さらに、人権・環境問題においては、EUの動きが活発化しており、情報収集・情報提供が行われた。

政府においては、繊維産地ネットワーク及び繊維産地におけるサプライチェーン強靱化の検討が行われた。

和装業界については、コロナ5類移行後、一般消費は一部でインバウンドの回復などを背景に復調傾向にあるが、コロナ禍の特別融資の返済なども始まり、依然として厳しい状況が続いている。また、人手不足問題は、織職人だけでなく、関連工業や織機の修理工などの専門職人の高齢化や廃業により危機的状況にある。道具や材料の

枯渇問題、生糸などの原材料や光熱費等の高騰、更に、業界特有の商慣行も生産の妨げとなっている。

令和6年（暦年・以下同）の化合繊（長）織物の生産量は573,410千㎡と前年比98.3%、輸出は441,093千㎡と前年比104.3%、輸入は385,569千㎡と前年比101.5%で推移した。

一方、絹織物の生産量は4,280千㎡と前年比89.4%、輸出は3,005千㎡と前年比93.5%、輸入は2,307千㎡と前年比91.7%で推移した。

（２）産地振興対策

平成24年度からは、一般社団法人（公益目的支出計画を完了するまでは移行法人）としての公益目的支出計画に基づき、絹・合繊織物の普及を目的とした「展示会開催等助成事業」及び「展示会出展支援事業」をホームページで公募を行い、事業を実施している。

ア 展示会開催等助成事業

令和6年度の「展示会開催等助成事業」は全国33の産地組合から33件の申請があり、その事業内容は、展示会、新商品開発事業、広告・PR事業等で事業総額299,341千円に対して、本会から178,680千円を助成した。

イ 展示会出展支援事業

① 海外展

一般財団法人織質会館の助成を得て、今年度は「The Japan Observatory」at Milano Unica（会場：ミラノ市 Rho Fieramilano）へ2回の海外展への出展を予定した。

2025 A/W 展は、7月9日から7月11日まで開催され、当会からは石川、福井の2産地組合3企業が出展した。

2026 S/S 展は、2月4日から2月6日まで開催され、当会からは福島、石川、福井の3組合から3企業が出展した。

また、当会の出展支援事業以外で西陣、丹後の2産地組合から6企業が出展した。

② 国内展

全国の繊維産地・企業が一堂に集結する国内唯一の繊維総合見本市である「JFW－ジャパン・クリエーション2025」は、11月6日～11月7日の2日間、東京国際フォーラムで開催された。

今年の出展社数は199社（国内53件/197社、海外2件/2社）、来場者数は、11,254人（前年比103.5%）であり少し増加傾向であった。

日絹ブースにおいては、16産地組合（85社、4グループ、7団体、3校 計101）、で90小間の出展となった。各ブース内では出展者による意欲的なプロモーション、来場者との活発な意見交換が行われていた。

なお、「JFW－ジャパン・クリエーション」は、2025年から国内素材展「TOKYO TEXTILE SCOPE」として、年2回（3日間）、東京都立産業貿易センター浜松町館での開催となった。

（３）各種振興事業

ア 人材育成事業

人材育成事業については、産地組合が独自に実施する海外研修事業等への助成を行っているが、組合事務局及び役職員の渡航費等に対しての助成は行わなかった。

イ 表彰事業

各産地組合及び関係団体においては、絹人織織物の需要開拓のため織物求評会・展示会等を開催しているが、令和6年度は5組合2関係団体8事業の優秀作品等に対して本会会長賞を交付した。

ウ 産地間連携

全日本帯地連盟（桐生組合、西陣組合、博多組合）は、開催出来なかった。

（４）情報提供事業

月次統計データ（織物需給表等）、年次統計データ（絹人織織物統計年報）を引き続き作成した。「パートナーシップ構築宣言」、「繊維産業の責任ある企業行動実施宣言」、「繊維産業の適正取引の推進と生産性・付加価値向上に向けた自主行動計画（第7版）」を周知徹底するとともに産地振興に寄与すると思われる情報を適時、ホームページ等で情報提供を行った。

また、産地間連携を推進するため、展示会・求評会等の情報を毎月集約し、全組合に情報発信している。

（５）その他

ア 和装振興協議会

きもの産業の様々な課題に取り組むため、平成２７年１１月に経済産業省と関係団体等で立ち上げた協議会であり、毎年１回開催されている。

今年度は、取引適正化にかかる取組、下請中小企業振興法「振興基準」及びパートナーシップ構築宣言、きもの振興についての取組みについて、意見交換等が行われた。

イ 一般社団法人全日本きもの振興会

コロナ禍で中止や延期等で実施が見送られてきた各種行事やイベントが通常通り開催され、ようやく和装を着装して参加する風潮が高まってきた。縮小したフォーマルきもの市場に代わり、俄かに活気づいているのがカジュアルきもの、ファッション性、趣味性の高いきもの市場である。コロナ前までフォーマル市場の陰に隠れがちだったカジュアル市場が、幅広い商品アイテムを揃え、新商品開発からコーディネート提案、業界内外とのコラボレーションなど、きものスタイルの新しい機軸、新しい価値観を打ち出している。

主な事業内容は、きもの文化検定、きもの学の開講、学校教育和服着装事業、きものコンサルタント育成事業、きものの女王大会への支援、和装振興協議会への参画、「きものの日・きものウィーク」のきもの着用、「３月３日きもので祝う女性の日・ユネスコ無形文化遺産登録」への協力を実施した。

ウ 和装（きもの文化）ユネスコ登録推進・連絡協議会

日本のところや文化の象徴として「きもの文化」のユネスコ無形文化遺産への登録を目指し、活動を行っている。

エ 勲章受賞者

本年度における栄えある勲章受章者の本会関係者は、次のとおりであり心よりお祝い申し上げます。

藍綬褒章（秋） 山本 一人 様 （石川組合）

オ 蚕糸功労者表彰受賞者

本年度における大日本蚕糸会の栄えある蚕糸功労者表彰受賞者の本会関係者は、次のとおりであり心よりお祝い申し上げます。

蚕糸功労賞 石原 光茂 様 (桐生組合)

蚕糸功労賞 礪波 修 様 (西陣組合)

以上のとおり、令和6年度において事業を実施したが、繊維業界及び産地を取り巻く事業環境は極めて厳しい状況が続いている。

本会は、展示会、新商品開発、新市場の創出、人材育成など産地組合が行う積極的な各種事業に対して、引き続き支援して参りますので、会員各位のより一層のご理解、ご支援をお願いいたします。